

## 2023年4月 旅行取扱高状況報告

< 旅行区分別 >

(単位：千円)

区 分	取 扱 高	前年同月取扱高	前年同月比	2019年同月取扱高	2019年同月比
海外旅行	12,247,439	1,625,506	753.5%	39,117,092	31.3%
国内旅行	3,302,093	2,483,833	132.9%	5,174,436	63.8%
訪日旅行	937,125	5,794	16,173.0%	3,023,623	31.0%
合 計	16,486,659	4,115,134	400.6%	47,315,152	34.8%

※株式会社エイチ・アイ・エス及びグループ 5 社（株式会社オリオンツアー、株式会社クオリタ、株式会社クルーズプラネット、株式会社ジャパンホリデートラベル、株式会社エイチ・アイ・エス沖縄）の社内取引を相殺した旧会計基準の取扱高となります。また、コロナ以前と比較をするため、2019年同月比（2019年4月）を記載しております。

### ■ 海外旅行

4月4日より「RE:START さあ、旅に出よう！」キャンペーンを実施し、お子様のパスポート取得費用のサポートや取消料発生期日の緩和などの施策を通じて、夏旅応援企画を展開しました。4月出発においては、韓国渡航に必要な電子渡航認証システム「K-ETA」申請が、免除となったこともあり、ソウル・釜山への送客が増加しました。また、4月29日には4年ぶりのチャータークルーズ「MSC ベリッシマで航く 南国薩摩と石垣島・那覇・台湾 美ら海クルーズ」を実施し、コロナ後初の外国船日本発着チャータークルーズでは、シニア・ファミリー層をコアターゲットに、多くの集客を達成するなど、レジャー需要の創出に努めました。

以上の結果、海外旅行取扱高は、前年同月比 753.5%、2019年同月比 31.3%の 122 億 4,743 万円となりました。

### ■ 国内旅行

全国旅行支援が延長継続となり、前年同月比を上回る取扱高となりました。しかしながら、2019年同月比はゴールデンウィーク10連休という日並びで、4月出発に高い需要があったこともあり、2019年同月比においては下回りました。4月出発の送客・取扱高としては、引き続き沖縄・九州・北海道方面のパッケージツアーの人气が高く、特にテーマパークや観光バスと絡めたツアーが好調に推移しました。また、国内航空券とホテルを組み合わせた「ダイナミックパッケージ」プランにご当地グルメを付ける HIS 独自の施策などが好評を得ており、2019年同月比、前年同月比においても高い伸びを示しました。

以上の結果、国内旅行取扱高は、前年同月比 132.9%、2019年同月比 63.8%の 33 億 209 万円となりました。

### ■ 訪日旅行

イースター休暇と桜シーズンの需要が後押しとなり、HISの訪日事業部では、欧米を中心に東京・箱根や富士山周辺・京都・大阪をはじめとする人気観光地への団体旅行が好調に推移いたしました。また、自治体とのインバウンド観光推進の取り組みとして、鹿児島県の観光素材と食の魅力を FIT 商材として掲載した訪日旅行サイトの作成や、MOU を締結している山形市を含む山形県村山地域 14 市町の魅力を、SNS を通じて多言語による情報発信に努めました。また、子会社であるジャパンホリデートラベルでは、バンコクと那覇を結ぶベトジェットエアによる定期チャーター便が 10 月まで延長決定を受け、団体旅行の集客が好調に推移いたしました。また、富士山日帰りバスツアーが単月 4,000 人以上の集客となるなど、回復の動きが顕著に表れています。しかしながら、中国からの受客が戻っておらず、本格的な回復には至っておりません。

以上の結果、訪日旅行取扱高は、前年同月比 1,6173.0%、2019年同月比 31.0%の 9 億 3,712 万円となりました。

2023年4月の取扱高合計は、前年同月比 400.6%、2019年同月比 34.8%の 164 億 8,665 万円となりました。

#### 本件に関するお問い合わせ先

株式会社エイチ・アイ・エス I R室：050-1746-4188  
広報室：050-1746-4177